

ちば経済フラッシュ

「ちば経済フラッシュ」は3、6、9、12月号に掲載します

千葉県経済の動き

概況

最近の県内経済は、悪化している。受注や売り上げの急減により、生産水準が急低下し、企業収益が大幅に悪化しているほか、厳しい雇用情勢を映じて個人消費も大きく落ち込んでいる。

千葉経済センタ―の「千葉県企業経営動向調査」(09年1月実施)によると、08年10～12月期の業況判断BSIは▲十九・五(前回比▲八・〇悪化)と8四半期連続で「悪化」超となり、統計開始(02年7月)以来、最低の水準であった前回(08年7～9月期▲十一・五)を大幅に更新した。

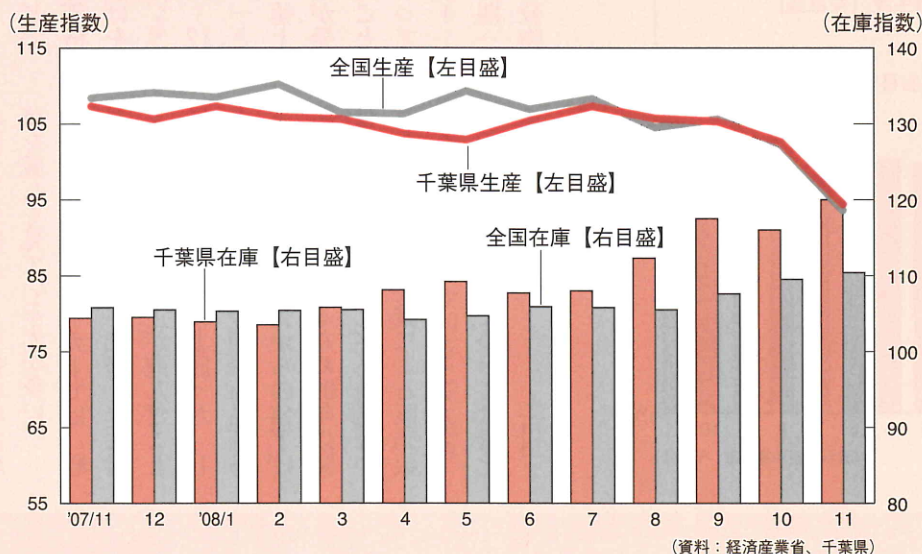
県内小売業では、株価下落による個人資産の目減り、企業収益の悪化やそれに伴う雇用不安などが重なり、消費マインドが急激に冷え込み、かつてない販売不振を訴える先が多い。特に、百貨店、スーパー、自動車ディーラーなどでは、厳しさを増している雇用情勢を映じて、08年10月以降、販売不振に陥っている。もともと、周年イベントが好調だった大型レジャー施設などで、前年を上回る先も見られた。

県内新設住宅着工戸数(08年9～11月期)は、07年の着工戸数が改正建築基準法施行により大幅に減少した反動で、前年同期比+三三・七%と増加したが、改正法施行前の水準は下回っており、水準としては高くない。銚子漁港の08年の水揚量は三年連続の日本一となった。水揚額も三〇二億円と、87年以来、二一年ぶりに三〇〇億円を突破した。

08年度設備投資計画額(08年12月末時点)は期初計画比▲〇・九%の下方修正となり、07年度実績比でも▲八・〇%のマイナスとなった。

千葉県の有効求人倍率(季調値)は、9月:〇・七六倍→10月:〇・七一倍→11月:〇・六八倍と低下し、雇用情勢は厳しさを増している。企業業績悪化等に伴い新規求人数が減少しており、11月の新規求人倍率(同)は〇・九六倍と、04年5月以来、四年半ぶりに一倍を下回った。(福田)

■ 鉱工業生産・在庫指数 (季節調整済、千葉県2005年=100、全国2005年=100)



(資料: 経済産業省、千葉県)

消費関連

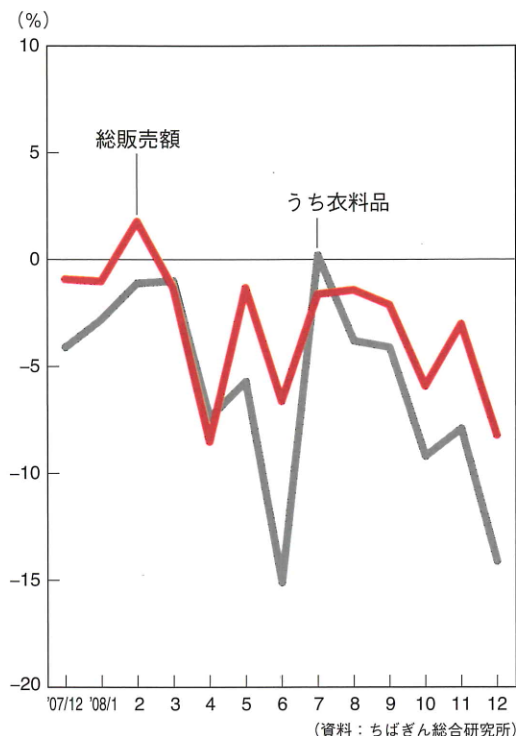
08年10～12月期の県内消費関連業界では、米国金融危機に端を発した株価の下落による個人資産の「逆資産効果」、円高の影響で輸出関連企業の業績下方修正が相次いだことによる所得の先行き不安、「派遣社員の解雇」等、不況色を前面に出すような報道に伴う雇用不安などにより消費マインドが急激に冷え込み、売上不振に陥っている先が多い。今後も短期間で消費が回復するとは思えないとして、

09年の売上高は、前年比マイナス四～五%の見通しを立てている企業が多く見られた。

これらを反映して、10～12月期の消費関連業種の業況判断B S Iは、小売(▲三〇・〇)、ホテル・旅館(▲十五・〇)、サービス(▲十一・八)の三業種すべてで大幅な「悪化」超が続いている。県内百貨店では、食の安全・安心志向の高まりから、飲食料品の売り上げこそ前年を上回っているが、貴金属やブランド品などの高額商品だけでなく、主力の衣料品をはじめ軒並み売り上げが前年を大幅に下回っている。

(松本)

■千葉県百貨店販売額伸び率 (対前年同月比)



食料品

食用油業界や製粉業界などでは、06年月中旬以降の原料穀物価格の高騰に伴い、相次いで値上げを打ち出し、収益改善を図っている。

県内食料品メーカーの08年10～12月期の収益B S Iは▲十二・一と3四半期ぶりに改善したが、値上げの影響で消費者の買い控えが発生し、最終需要が落ち込んだことなどから依然水面下にとどまっている(1～3月期: ▲一・五→4～6月期: ▲六・七→7～9月期: ▲十五・六)。また、足元の穀物

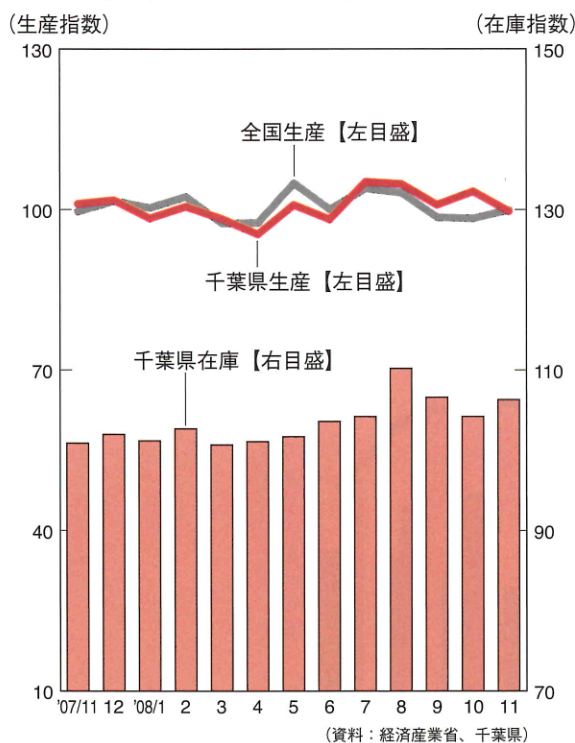
価格は急落しているため、川下の食料品メーカーからの値下げ圧力の強まりを懸念し、今後の収益環境を厳しく見ている先が多い。

多くの食用油メーカーでは、収益が業種などの原料価格上昇に対する販売価格の是正が進んだことにより前年を大幅に上回った。しかしながら、穀物の国際商品価格下落を受け、販売先からの値下げ圧力が強まっているため09年以降は値下げ要請に応じざるを得ないことに加え、需要減による販売数量の減少も続いていることから、先行きの収益環境については悪化を見込んでいる。

(古川)

■食料品の生産・在庫指数

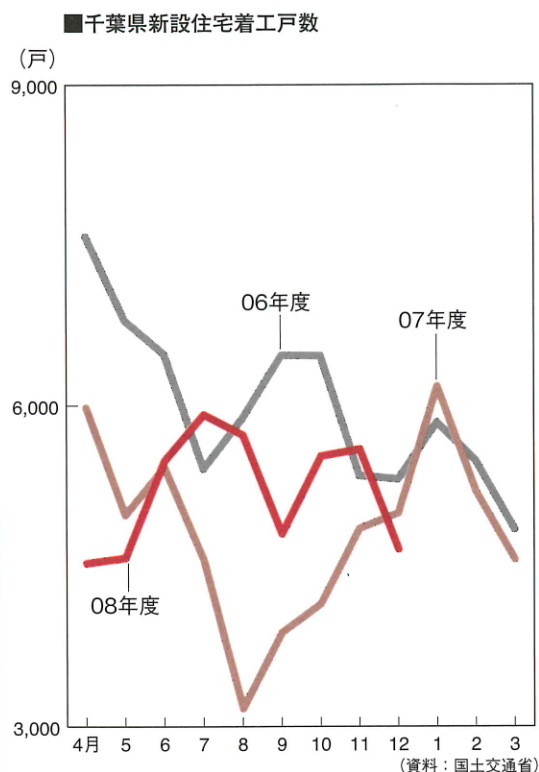
(季節調整済、千葉県2005年=100、全国2005年=100)



住宅・建設

県内の08年9～11月期の新設住宅着工戸数は、前年の改正建築基準法施行の影響による着工戸数の大幅減少があった反動で前年同期比+23・7%増加したが、改正法施行前の06年同期比では▲12・9%減と、依然として減少傾向が続いている。

マンションを中心とした民間不動産市場は、鋼材価格の高騰による住宅価格の上昇や、賃金の伸び悩みなどを背景とした販売不振の影響で低迷している。販売不振を



受け、08年9～11月期のマンション供給戸数は前年同期比▲43・2%減少と大幅に絞り込んでいるにもかかわらず、同期間のマンション初月契約率は六八・二%と、好不況の境である七〇%を下回って推移している(9月の初月契約率・五九・四%→10月・六七・六%→11月・七八・五%)。

08年10～12月期の県内公共工事請負額は、大口の住宅建築工事や、大学キャンパスの新築工事など比較的規模の大きい案件が増加したことなどから、前年同期比+三・一%と2四半期連続で前年を上回った。(福田)

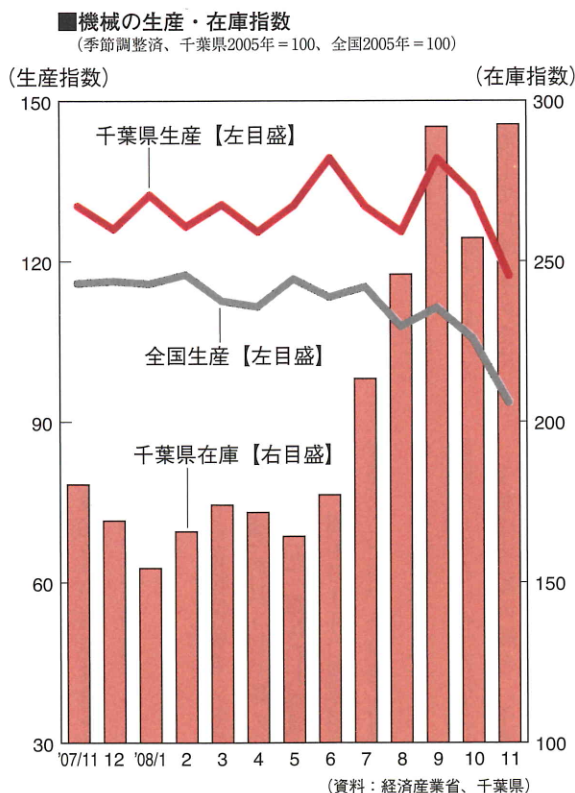
機械

県内電気機械の08年10～12月期の生産BSIは▲二八・六(前回比▲二八・六)、09年1～3月期見込みも▲四二・九と急速に悪化した。これは、リーマンショックとその後の世界同時株安を受けて世界経済が急速に後退色を強めたことから、大手メーカー各社が生産調整を急いだため。

県内一般・精密機械の08年10～12月期生産BSIは、▲二六・九(同▲二三・〇)と大幅に悪化し、収益BSIも▲二五・〇(同▲十

五・〇)と引き続き「悪化」超となっている。これは、これまで外需に牽引され比較的好調だった建設機械関連が失速したほか、自動車関連等受注先の業況悪化の影響を直に受ける中小企業も多いため、引き続き収益環境は厳しいと見る向きが多い。

また、これまで旺盛な外需に牽引され好調だった輸送用機械の生産BSIは▲三六・四(同▲四一・四)、09年1～3月期の見通しも▲二九・二と急速に悪化している。国内大手メーカー(自動車やトラック)では、10月以降、北米向けの低迷が急速に強まっており、全体として生産が弱含んでいる。(橋本)



ITソフト

11月の情報サービス業（全国）

の売り上げは、前年同月比▲二・五%減と三か月連続で前年を下回った（10月・同▲二・〇%減少）。売り上げの半数以上を占める受注ソフトウェア開発は、金融業向けなどが増加し前年を上回ったが、ゲームソフト向けなどのソフトウェア開発が同▲二〇・八%と大幅に減少したため、全体でも前年を下回った。

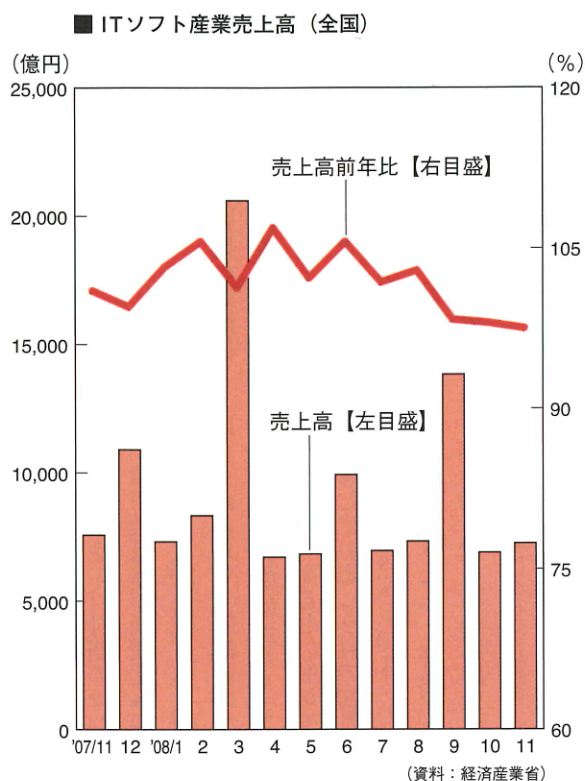
県内のIT関連業者四〇社で構成する協同組合の動向調査（08年

12月実施）によると、売り上げ、利益、取引条件などの主要調査項目において、七割以上の企業が悪化と回答するなど、県内IT企業の景況感は急速に悪化している。

先行きのIT関連の設備投資は、大手銀行のシステム統合案件の収束に加え、世界的な景況悪化の影響を受けて、製造業を中心に抑制姿勢が強まっている。

県内IT企業でもメーカー傘下で下請けが中心のIT業者や、人材派遣業務を行っている企業などを中心に受注環境の悪化が見込まれ、先行きに対する不透明感が強まっているといった声が聞かれた。

（福田）



窯業・土石

県内の生コンクリート主要協同

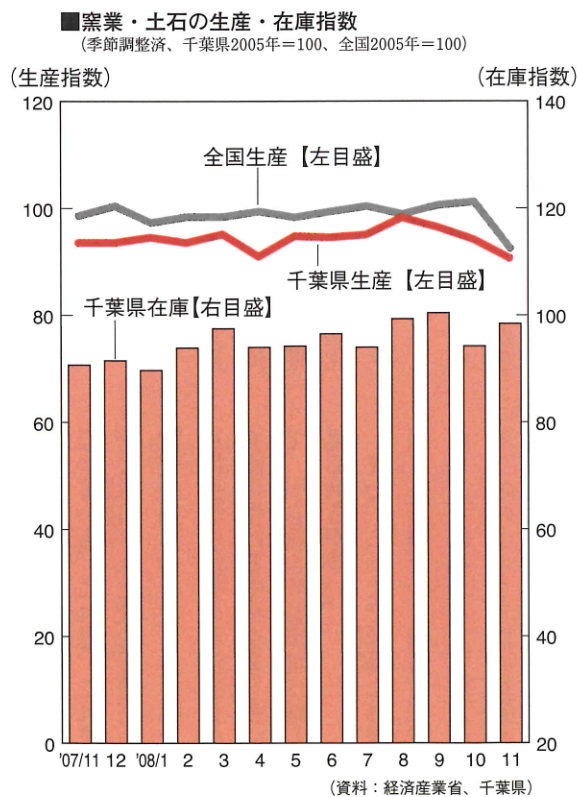
組合（北部・西部・中央）の08年10～12月期の出荷量は、前年同期比▲十七・四%減少と、7四半期連続で前年を下回った。マンションを中心とした不動産開発事業は、販売不振などを背景に延期や凍結となる案件が多発している。そのため、生コンの出荷量も建築基準法改正の影響があった前年を下回った。

千葉北部協同組合（柏・松戸・野田など）の10～12月期の出荷量は、同▲二〇・八%と大幅に減少

した。デベロッパーなどが在庫販売を優先させ、新規供給を絞っているため、生コン出荷も大幅に減少している。

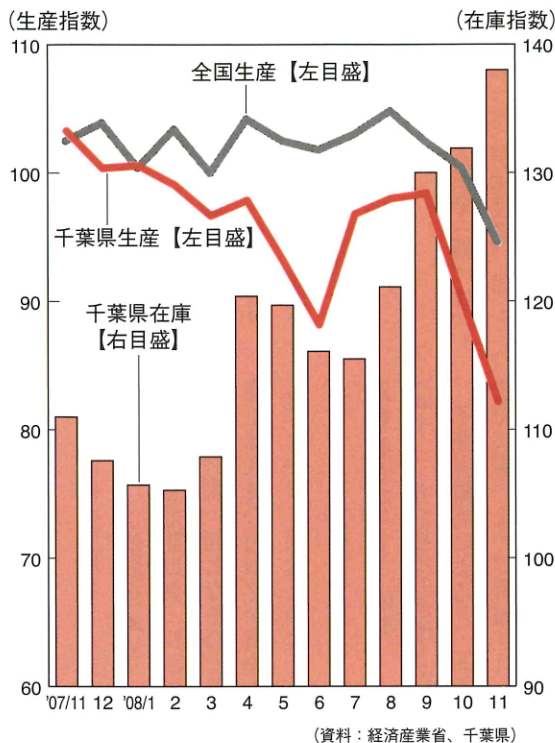
千葉西部協同組合（浦安・市川・船橋）の10～12月期の出荷量は、同▲三九・四%の大幅減少となった。08年の9月に需要想定を下り修正したが、その後も開発事業の中止や延期が多数発生し、修正計画からさらに▲一割落ち込んだ。千葉中央協同組合（千葉・市原・袖ヶ浦）では大型物件の着工遅れの影響で10～12月期の出荷量は増加したが、08年の累計は前年比▲十三・六%減と大幅に減少した。

（福田）



化学工業の生産・在庫指数

(季節調整済、千葉県2005年=100、全国2005年=100)



県内鉄鋼・非鉄金属(中小企業
が中心)では、企業収益の悪化に
よる建設投資の抑制や、マンショ
ン等の民間需要低迷の影響で、建
築鋼材の出荷量が激減している。
08年10月以降は、外需に支えられ
堅調に推移していた輸送用機械、

建設機械など製造業向けの需要減
も重なり、在庫調整や買い控えの
動きが拡大している。(福田)

鉄鋼

石油・化学

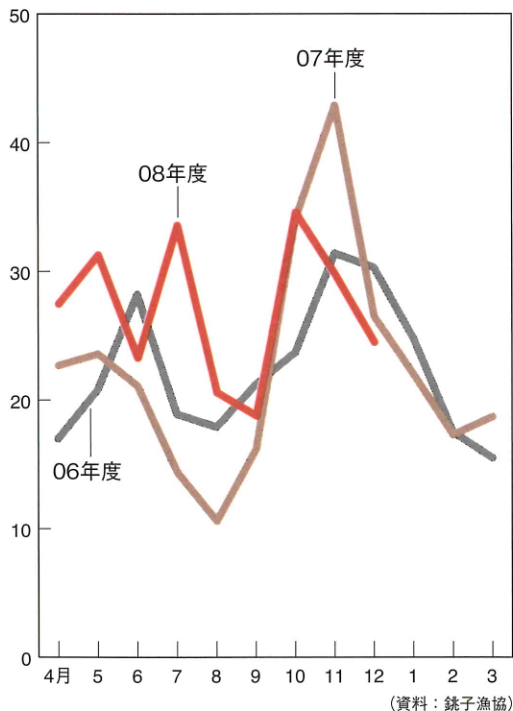
08年10～12月期の県内高炉メー
カー二社の粗鋼生産量は、自動車
など製造業における鋼材需要の減
退に伴い10月以降減産を実施した
ため2四半期ぶりに前年を下回っ
た。

石油・化学

08年10～12月期の国産ナフサ価
格は、原油価格の乱高下の影響を
受け、五万二〇〇円/kgに急落
した。大手石油化学各社は、02年
以降中国を中心としたアジア市場
の旺盛な需要を背景にフル生産が
続いていたが、景気悪化によるエ
チレン需要の低迷に伴い、今夏か
ら減産を実施している。原料ナフ
サ価格上昇分の販売価格への転嫁
が浸透しないまま減産局面に入っ
たため、収益が圧迫されている先
が多い。(古川)

銚子漁港の水揚げ額

(億円)



出荷量の減少は、7月中旬の雨
不足や8月末のゲリラ豪雨の影響

勝浦漁港の10～12月期の水揚げ
状況は、数量が一六九九t(前年
同期比+五・三%)、金額が八・〇
億円(同▲四〇・二%)となった。
(古川)

農業

農業・漁業

08年10～11月期の千葉県産主要
野菜一〇品目の東京中央卸売市場
への出荷は、数量が三万四九三三
t(前年同期比▲二・六%)、平
均単価が一二七・五円/kg(同▲
一・二%)となった。また、出荷
金額は、出荷数量の多い11月(10
月の約二倍)の平均単価が一九
円/kg(同+十五・一%)と前年
を上回ったため、四三・七億円と
同+三・二%増加した。

漁業

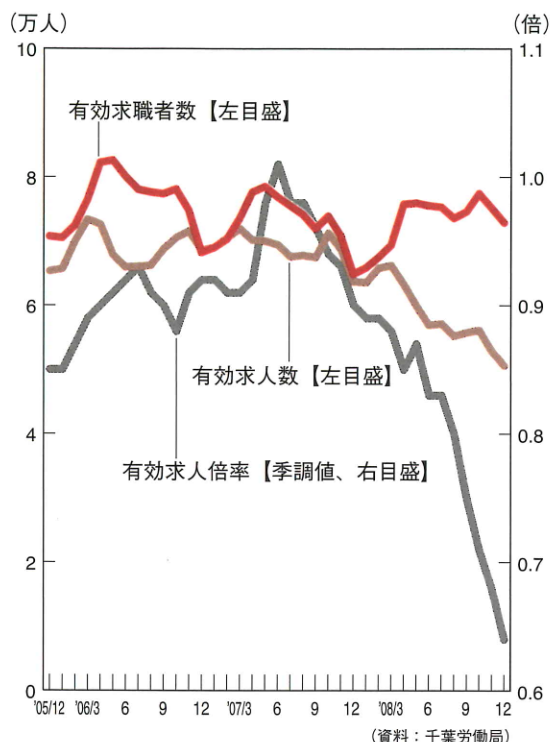
銚子漁港の08年10～12月期の水
揚げは、数量が九万一三九〇t
(前年同期比+二・一・三%)と3
四半期連続で前年比増加したが、
単価が下落したことにより(07年
10～12月期…一三七・四円/kg↓
08年10～12月期…九七・三元/
kg)、金額は八八・九億円(同▲
十四・一%)と5四半期ぶりに前
年を下回った。

漁業

で、成育が遅れたことによるもの。
(古川)

雇用

■千葉県内労働需給状況



11月の千葉県の有効求人倍率(季調値)は、〇・六八倍と前月比〇・〇三ポイント悪化し、横ばいをはさみ六か月連続で悪化した(9月…〇・七六倍→10月…〇・七一倍)。

11月の新規求人倍率(同)は、新規求人数(同)が建設業、卸・小売業などで減少し、〇・九六倍(前月比〇・〇五ポイント低下)と悪化した。新規求人倍率が一倍を割り込むのは、04年5月以来、四年半ぶり。

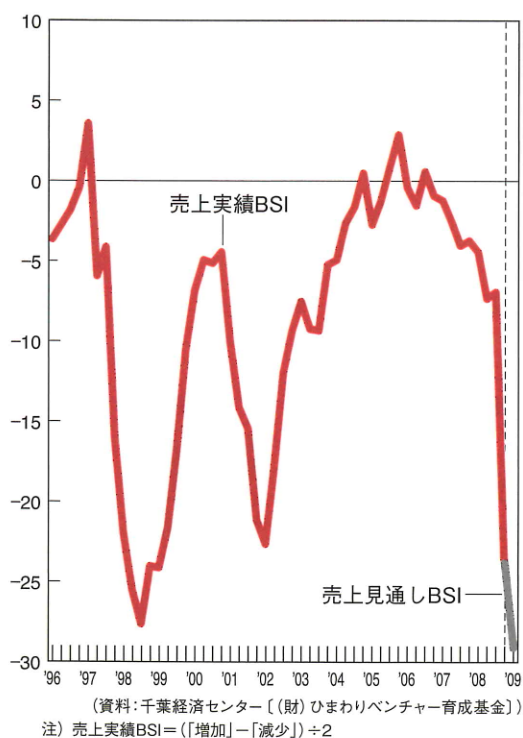
製造業を中心とした需要の急激

な減少に伴い雇用BSI(全産業)は、▲四・三(前回比▲五・八)と04年4～6月期以来、18四半期ぶりに「過剰」超となるなど県内企業では人員の過剰感が出始めている。なかでも製造業の大企業では▲十一・三(前回比▲十六・二)と過剰感が強まり、02年1～3月(▲十三・九)以来の水準となった。

千葉労働局によると、09年3月までに雇い止めで解雇される非正規労働者は08年12月19日の時点で五六二人に上る(業種はすべて製造業)。同労働局では、「雇用情勢がこれほど急速に悪化することは、これまでに例がなく厳しい状況」としている。(福田)

企業経営 動向調査(BSI)

■企業経営動向調査 売上実績・見通しBSIの推移



08年10～12月期の県内企業の業況判断BSI(全産業)は▲十九・五と、前回(08年7～9月期)比▲八・〇悪化し、8四半期連続で「悪化」超となった。このうち製造業は▲二二・六(前回比▲一〇・八悪化)、非製造業は▲十六・三(前回比▲五・二悪化)とともに悪化した。また、製造業、非製造業とも全規模で悪化した。業況判断BSI(全産業)の▲十九・五は、02年7～9月期の統計開始以来最低の水準を2四半期連続で更新した。

収益BSI(全産業)は▲二一・六(前回比▲九・六)となり、12四半期連続で「悪化」超となった。製造業は▲二四・六(前回比▲十二・五)、非製造業が▲十八・四(前回比▲六・五)とともに悪化した。

08年度設備投資計画額(全産業)は、07年度実績比▲八・〇%の減少となった。期初計画比でも▲〇・九%の下方修正となった。

雇用BSI(全産業)は▲四・三(前回比▲五・八)と04年4～6月期以来四年半ぶりに「過剰」超となった。先行きの雇用BSIは▲八・七(実績比▲四・四)と「過剰」感が強まる見込み。(古川)